

安曇野屋敷林サポーター通信

第9号

発行日/2014年3月31日

編集・発行/屋敷林と歴史的まちなみプロジェクト 連絡先/安曇野ブランド推進室 ☎ 0263-82-3131 http://keikan-azumino.net/p_yashiki

「安曇野屋敷林フォーラム2014」のご報告



- ■日 時 平成26年2月22日(土) 開演13:30~14:30
- ■場 所 安曇野市 碌山公園 研成ホール
- ■プログラム
 - 1:30 主催者あいさつ
 - 1:35 来賓挨拶
 - 1:40 基調講演「安曇野の屋敷林」 講師:笹本 正治
 - 2:50 休 憩
 - 3:00 パネルディスカッション コーディネーター:場々 洋介 アドバイザー:笹本 正治氏 丸山氏(市職員景観担当) 高橋氏(造園家) 望月氏(建築士) 「身近にできる緑化」
 - 4:30 閉 会



「安曇野の屋敷林」笹本正治先生公演より

安曇野の素晴らしい景観は北アルプス・水・樹木にあると思います。その中に屋敷林は点在していますがこの景観になったのは、おそらく400年前であり安曇野に拾ケ堰などが出来て水田が出来、さらに現在の風景になったと思われる。

つまり素晴らしい景観は、先人の努力の賜物といえる。 心地いい風景もその時代の人々の感性により大きく変わるもの

なのです。屋敷 林の目的は農家 の敷地にあり防 風林・防風林や あり、経着したを 在でした。立文化 を といまりまり た。 曽根原家住



宅や山口家等々力家の例で説明されました。

三郷の松岡家には大きな欅藤の木があり見事です。いつか美 しい季節に見たい。

岩手県ではかつて屋敷のことを要外(お城)と言っていました。 静岡県でも屋敷林のことを要外と呼んでいるようです。今後の屋 敷林の中で大切にしてほしい木があります。

それは栗の木と柿の木です。我々はこの木に大変恩恵を受けています。栗は食糧にあたり屋根材にもなりました。

私たちにとっての心地よい風景をつくりたいのかを考える時期です。特に巨木を多く残して欲しと思います。

今後の屋敷林の利用としてはスポット公園などはいかがでしょうか。また樹木を残すという意味では準公的な場といえる神社と寺をみんなで負担していくという考え方があります。

緑化をとおして将来の安曇野の文化を考えるきっかけになる といいと思います。



<笹本先生の資料より>

アオキ

厚さ寒さに耐える事から、不景気にも強靭に生き残る

・ウメ

松竹梅に数えられる、めでたい樹木。厳しい冬に耐えて真っ先 に咲く

・エンジュ

中国では高い官位に就くと庭に植える風習があり、高貴の木とされていた。「延寿」は、寿命を延ばすに通じる。庭に植えると幸福を呼ぶといわれる

•柿

「お金をかき集める」といって縁起が良い

・カシ(シラカシ)

表庭にカシノキを植えて、裏庭にカリンを植えて、「金は貸すけど、借りん」で縁起が良い

・カシワ

柏の葉は新芽が育つまで古い葉が落ちないことから、子孫繁 栄(家系が途切れない)

「パネルディスカッション ~身近にできる 緑化~」より

コーディネーター

大きな屋敷林は旧農家を中心とするエリアに通りを形成して存在します。しかし屋敷林の維持には、メンテナンス費用がかかることや周辺に対する日陰や落葉の問題で切ってしまい、消える屋敷林も多くあります。

安曇野市で2000~3000といわれる屋敷林は確実に減っていることは事実です。また新しく出来る住宅地も市は300㎡以上を目標にしているのですが、新しい住宅のみで、周辺の緑化や生垣などを造る家などほとんどありません。また、メンテナンスがかからないとするブロック塀も市内の至るところで残っているのも気になる所です。市民は確実にメンテナンスがかからない方向で家造りを考えているものと思います。生垣を造ること、ガーデンを造ることなど、身近にできる緑化がもっと積極的に出来ないでしょうか。

丸山 武氏(市職員景観担当)

安曇野市景観条例の説明をされました。住宅の計画に際して敷地の緑化についての アンケートがあるが ほとんどの申請者があまり考慮してないように思えます。住宅をつくるのに手いっぱいで、緑化に関しては今後の予定と考えているようです。平成25年度申請中800件のなかで8件において緑化について配慮されたようです。

新興住宅地では、周辺の景観にそぐわないものも気になるところです。市としては今後いかに緑化について住民が関心を持ってくれるかが課題です。



高橋 隆蔵氏(造園家)

屋敷林の成長に伴い、その分だけ切ることはあまり問題ないと 思いますが、新しい住宅が緑化されないのは大きな問題です。 日本の建築は屋根の建築であり、樹木により壁面があまり目立 たないことです。ここに来る住民は日本でも特別な所であるとい う認識が必要でしょう。

望月 彰氏(建築士)

穂高等々力地区の住宅地、開発の事例の説明がありました。 この分譲地は、電線とガスの地中化や十分緑化したことが特長 です。この土地は住民協定をつくり、風をさえぎる塀は造らない 等を決めて、緑あふれる住宅地ができました。

開発地に公共緑地はできますが、実際には空き地となっている だけで緑化されていない所が多いと思います。

住宅を造る場合など、外構工事として緑化についても予算化することが必要ではないでしょうか。

笹本 正治氏(アドバイザー)

長野県は緑豊かなので、周辺の緑についてはあまり考えられていないのが現状だと思います。緑の少ない地区の方が素晴らしい緑化がされている。

今後は個人の問題から公の問題についての住民の共有したビジョンが必要でしょう。安曇野市でも緑化デーを創設したらどうでしょうか。

コーディネーター

屋敷林のある風景は安曇野市では今後、重要視とし保存し継続していきたいものです。市の景観を形成しているものはそれだけではありません。恵まれた北アルプスや扇状地を流れる河や湧水のわさび畑など、安曇野市の財産です。この地が景観的にも優れていることは全国レベルで評価されています。しかし、細かい目でみると、もっと緑化された景観にする必要があるのではないでしょうか。

緑の豊かさは心の豊かさにも繋がると思います。毎日生活している喜びの中で、緑ある暮らしを充実していきたいものです。前年度のフォーラムのテーマにした、民家のあり方ももう一度安曇野の景観のひとつとし、まちづくりに生かす方法も考えたいと思います。

笹川先生と同感ですが、水は安曇野の大きなテーマだと思いま す。水のある景観を屋敷林と共に考えていきたいと思います。

大雪の後のフォーラムでしたが、約60名の参加者がありました。 大変有難うございました。



文責:場々